

## 第8回 全建連建築技能競技大会 競技課題

次の注意事項、仕様及び課題図に従って、競技課題「振隅木・振たる木・鼻栓打ち」の現寸図の作成、木ごしらえ、墨付け及び加工組立てを行いなさい。

### 1. 競技時間

7時間45分

### 2. 材 料

ベイツガ（カスケード材）

### 3. 注意事項

- (1) 支給された材料の品名、数量等が「5. 支給材料寸法表」に示すとおりであることを確認すること。
- (2) 支給された材料に異常がある場合は申し出ること。欠陥の有るものは交換する。
- (3) 競技開始後は原則として材料の再支給を行わない。
- (4) 使用工具は市販されている物で自由とする。  
※充電インパクト、ドリル使用可。（コードレスに限る。）  
※クランプ類は使用出来ない。
- (5) 競技中の工具等の貸し借りは禁止する。
- (6) 作業時の服装等は作業に適したものであること。
- (7) 現寸図を描き終えたら委員に申し出ること。採点后返却する。  
※右下に競技番号を記入。
- (8) 現寸図提出後、削り作業に移ること。なお木削りに必要な寸法、くせ等は提出する前に控えておくこと。
- (9) 全ての部材の木削り、くせ削り等が終了後墨付けに移ること。
- (10) 墨付け部材の提出順序は次の通りとする。なお部材の切捨て部分に競技番号を記入する。

1回目 柱・はり・桁            2回目 振隅木・振たる木・鼻かくし

3回目 残りの部材

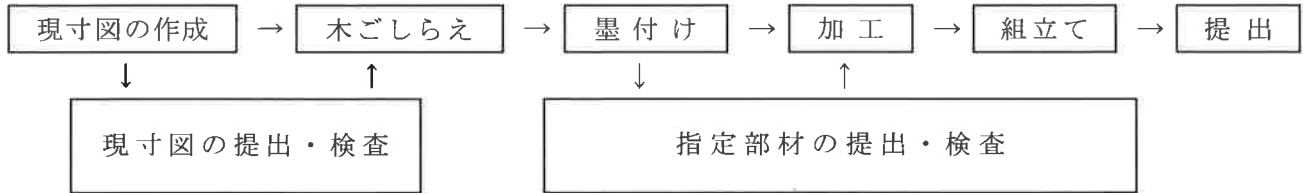
なお、飼木（ねこ）、栓は提出しない。

- (11) 組立て作業に入る前に作業場を清掃し、組立て工具を用意し、委員に申し出ること。
- (12) 作品が完成したら委員に申し出て指示を受けること。なお、一度提出した作品については、いかなる理由があっても選手は手を触れることは出来ない。

(13) 競技会場での携帯電話の使用は禁止する。計算機は使用出来ない物もあるので、事前に委員の確認を受けること。

## 4. 仕 様

〈作業順序〉



### (1) 現寸図の作成

現寸図は、用紙を横に使用し、振隅木平面図（図1）、番号5振隅木4面展開図及び木口、番号7振たる木2面展開図及び木口を作成し、提出検査を受けること。また、提出した現寸図は、審査終了後に返却するが、審査中は次の工程（木ごしらえ）に移ってもよいものとする。

### (2) 木ごしらえ

※部材の仕上がり寸法は次の通りとすること。（単位：mm）

番号	部材名	仕上り寸法(幅×成)	番号	部材名	仕上り寸法(幅×成)
1	柱	60×60	8	鼻かくし	20×70
2	はり	60×60	9	鼻かくし	?×?(現寸図による)
3	桁	60×70	10	火打	50×20
4	桁	60×70	11	つなぎ	20×20
5	振隅木	50×70	12	鼻栓	15×20×15
6	平たる木	32×40	13	飼木(ねこ)	60×70
7	振たる木	32×?(現寸図による)			

- ① 振隅木は、山勾配に削って木ごしらえをすること。
- ② かなな仕上げは、中しこ仕上げとすること。
- ③ 振たる木は、現寸図によって、くせ削りをする事。
- ④ 振隅木上端及び振たる木上端、下端以外の各部材は直角に仕上げる事。
- ⑤ 振隅木上端角（とかど）、振たる木上端、下端を除く各部材は糸面取りとする。
- ⑥ 飼木（ねこ）及び、つな木は、ひとかなな仕上げとすること。

### (3) 墨付け

- ① 加工組立に必要な墨は全て付け、黒色の墨つぼ及び墨さしを使用して仕上げる事。

- ② けびきによる線の上から墨付けを行うことは禁止とする。ただし、芯墨を打つため、部材の両端にマーキングを行う場合のみ、けびきの使用を認める。
- ③ 各部材とも幅芯墨は墨打ちとし、上端及び下端とも残しておくこと。なお、柱には、4面とも幅芯墨を残しておくこと。
- ④ 平たる木勾配を、6 / 10 勾配とすること。なお、平たる木鼻は直角とし、振隅木及び、振たる木は、平たる木に合わせ、投墨を入れること。
- ⑤ 桁上端から8 mm 上がりを峠とし、課題図に基づき墨を入れること。
- ⑥ 桁には、上端及び下端の幅芯墨、振隅木及び各たる木の取合い墨を入れること。なお、はりとの取合い墨は、あり落とすこととする。
- ⑦ 桁と桁との取合いは、ねじ組み（③桁の振隅木落掛り勾配の1 / 2）とし、詳細図に基づき墨付けすること。
- ⑧ 柱には、幅芯墨及び峠墨を入れること。
- ⑨ 柱には、振隅木のほぞ墨（打抜き栓打）及び、はりのほぞ墨（打抜きほぞ）を入れること。
- ⑩ はりには、上端及び下端の幅芯墨、柱・桁との取合い墨を入れること。
- ⑪ 振隅木には、上端及び下端の幅芯墨、柱、桁及び振たる木の取合い墨を入れ、上端にはたすき墨、馬乗り墨を入れること。また、桁落掛りは、桁上端とすること。なお、側面には、入中、出中、本中墨、たる木下端墨及び峠墨を入れることとし、左右たる木下端で桁に仕掛けること。
- ⑫ 振たる木は、展開図に基づき墨付けをすることとし、上端及び下端に幅芯墨、桁芯墨及び隅木との取合い墨を入れること。なお、振たる木と振隅木との取合いは、短ほぞ（成1 / 2）とし、課題図（各部材詳細図参照）に基づき墨付けをすること。
- ⑬ 平たる木は、上端及び下端に幅芯墨、桁芯墨を入れること。
- ⑭ 火打は、幅芯墨及び桁取合い墨を入れること。
- ⑮ 鼻かくしは、振たる木及び平たる木の取合い墨、桁芯墨を入れること。
- ⑯ つなぎ及び飼木（ねこ）は、課題図に基づき取合い墨をすること

#### (4) 加工

- ① 加工の順序は、各選手の任意とする。
- ② 各所の取合いは、課題図に示す通りに行うこと。
- ③ 桁と桁との取合い及び、桁と振隅木との取合いは、課題図の通りとすること。
- ④ はりと桁との取合い及び、はりと柱との取合いは、課題図の通りとすること。

- ⑤ 振隅木とたる木の取合い及び、鼻かくしの取合いは、課題図の通りとすること。
- ⑥ 振隅木のど角、並びに振れたる木を除く部材、及び全ての木口は、かな仕上げ糸面取りとすること。
- ⑦ 飼木（ねこ）は、課題図の通り3ヶ所とし、それぞれ木口から2本の釘で固定すること。

#### (5) 工具

組立てに使う道具以外はしまう。

組立てに使用する工具は、指定された工具のみとする。やむを得ず使用する場合は、委員に申し出てから使用する。

#### (6) 組立て

作品は、各部材を釘止めとし（打ち掛けとしない）、組上がった状態で提出すること。なお、各部材の釘止めについては、下記によること。また振隅木と桁、振隅木と鼻かくしは釘2本で止め、それ以外は1本止めとする。

- ① 桁に上端から釘止めする部材。

※振隅木、各たる木、火打、つなぎ

- ② 鼻隠しは振隅木及び振たる木、平たる木に側面から釘止めする。

- ③ 柱に、側面から釘止めする部材。

※平たる木、つなぎ

## 5. 支給材料寸法表

(単位：mm)

番号	品名	寸法・規格	数量	備考
1	柱	650×61.5×61.5	1	
2	はり	550×61.5×61.5	1	
3	桁	600×61.5×71.5	1	
4	桁	700×61.5×71.5	1	
5	振隅木	1000×51.5×71.5	1	
6	平たる木	750×33.5×41.5	1	
7	振たる木	500×33.5×?	1	
8	鼻かくし	600×21.5×71.5	1	
9	鼻かくし	600×?×?	1	
10	火打	450×51.5×21.5	1	
11	つなぎ	450×20×20	1	
12	鼻栓	180×21.5×16.5	1	
13	飼木(ねこ)	400×60×70	1	切使い
14	釘	50	25	桁-火打、つなぎ、飼木 柱-つなぎ 鼻かくし、各たる木、振隅木 削り台用
		65	4	桁-各たる木
		75	2	桁-振隅木
15	現寸図作成用紙	788×1091	1	ケント紙

## 6. 会場に準備されているもの

- ① 削り台 1
- ② 作業台 2